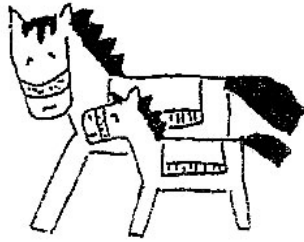


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

30年 10月 NO.287



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

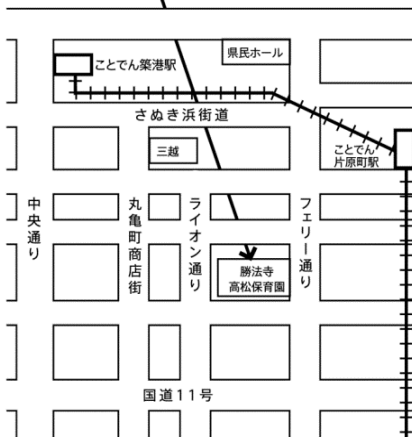
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		10月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
10月 7日	日	運動会においで！ 9:00～13:00	旧新塩屋町小学校の体育館で9時より乳児～2歳児、運動場で10時半より3歳児～5歳児までの運動会をします。
10月 12日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「秋のおはなし届けます！」をテーマに手あそびやペーパーシアターもあります。
10月 13日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験においで下さい。
10月 13日	土	おとなアート 14:00～16:00	人の動きに着目して立体像をつくります、(予約10/13まで)
10月 16日	火	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「心育ては愛着関係～心の安全基地づくり～」をテーマに青井恵子氏(社会福祉士)に語っていただきフリートークします。
10月 27日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って一緒に遊みましょう・
10月 30日	火	健康・育児相談 15:00～16:00	園医師(小児科医)にゆっくり相談できます。(予約要)

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



え平雲あた おす雲ち と月よ雲 月ばま空
っ気あた 月まのの 月まもけは とん
さのちたま 月まのの 月まもけは とん
つへも踏ま 月まのの 月まもけは とん
さへい踏ま 月まのの 月まもけは とん
さいざで 月まのの 月まもけは とん

金子みすゞ童話全集
「美しい町・上」
JULA出版局



☆今月の内容—「卒園生のお母さんからのお便り」

先日、卒園して今では立派な大学生になったKちゃんのお母さんより、こんなお便りをいただきました。

先月の大阪地震、今月の豪雨、そして連日の猛暑と色々続いています。先生方や保育園の子どもさんたちは大丈夫でしたか？私は神戸に引っ越してきてすぐ地震に遭い、結構揺れたのですが特に被害はありませんでした。

豪雨被害も、特に被害は無かったのですが広島、岡山と多くの方が被災してしまい、今も厳しい状況の中 避難生活を続けておられる方がいて、どちらも昔住んでいた県なのでとても悲しいです。

先生の葉書を読んでいて、Kの保育園時代を思い出していました。Kはとても泣き虫で…園に送って行って離れる時はいつも泣いていました。泣き虫は、それ以降もなかなか卒業できなくて、小学校、中学校もその時、その時で色々悩みがありました。

早く、大きくなってくれたら…早く自分で何でも出来るようになってくれたらな…なんて、思うこともありました。…ありましたが、今回大学で一人暮らしを始めるにあたり、一人で大丈夫なんだろうか、と心配していたんですが、いつの間にか子どもって大きくなってしまいうんですね。一人で役所関係や大学の引越し手続きも済ませてしまい、お料理や家事、サークル、バイト、授業にと毎日忙しくしているようです。

初めての子育てで次々と初めての知らないことが出てきて、本当は私の方も探り探り、調べたり考えたりして もう内心一杯一杯 時には怒ったり ぜんぜんまだまだいつまでも未熟な親なのに

どんな時も頼ってくれて甘えてくれて、好きでいてくれる子どもって、無条件で親のことを愛してくれますよね。そんなかけがえのない存在って他にないと思います。

そばにいる時はそれが当たり前すぎて気付かないですが…。今思えば小さい頃、もっと優しくしてあげたらよかったな、もっと一緒の時間を過ごせばよかったなと思う時もあります。

「ママあのね」「ママ今日学校でね」「ママおなかすいた」

毎日毎日聞いていたKの声が聞こえない毎日は寂しいですが、これから大学という広い世界へ一人で歩き出そうとしているKの事をこれからは少し離れたところから、応援していきたいと思っています。

子育て。本当につらい 迷う事 たくさんありました。だけど過ぎ去ってみればあっという間で…そしてそれ以上に楽しい事 嬉しい事、幸せなことがたくさんありました。

と、言ってもKはまだ未成年、もう一踏ん張りあるんですけどね。

この詩は、最近ネットで知った詩ですが、ご紹介しましょう。(お便りに同封)

「最後のとき」

赤ちゃんをその腕に抱いた瞬間から
あなたはこれまでとは全く違う人生を生きる

以前の自分に戻りたいと思うかもしれない
自由と時間があって 心配することなど何もなかったあの頃の自分に
今まで経験したことがないほどの徒労感 毎日毎日まったく同じ日々
ミルクを与えて背中をさすってやり おむつを替えては泣かれて
ぐずられて嫌がられて 昼寝をしすぎてもしなくても心配で
終わることのない永遠の繰り返しに思えるかもしれない

だけど忘れないで…

すべてのことは、「最後のとき」があるということ

ご飯を食べさせてやるのはこれが最後、というときがやってくる

長い一日のあと子どもがあなたの膝で寝てしまう
だけど眠っている子どもを抱くのはこれが最後
子どもを抱っこ紐で抱えて出かける
だけど抱っこ紐を使うのはこれが最後



夜はお風呂で髪を洗ってやる

だけど明日からはもう一人でできると言われる

道を渡るときには手を握ってくる

だけど手をつなぐのはこれが最後

夜中こっそり寝室にやってきてベッドにもぐりこんでくる

だけどそんなふうを起こされるのはこれが最後

学校まで送っていけば行ってきますのキスをしてくる

だけど次の日からは一人でだいじょうぶと言われる

寝る前に本を読み聞かせて 汚れた顔をふいてやるのもこれが最後

子どもが両手を広げて あなたの胸に飛び込んでくるのもこれが最後

だけど「これが最後」ということはあなたには分からない

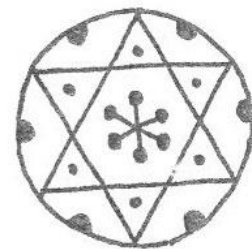
それがもう二度と起こらないのだと気付くころには

すでに時は流れてしまっている

だから今、あなたの人生のこの瞬間にも

たくさんの「最後」があることを忘れないで

もう二度とないのだと気付いてはじめて



あと一日でいいから、あと一度きりでいいから、と切望するような

大切な「最後のとき」があることを

Kちゃんのお母さんは、ご主人の仕事の都合で10数年の間に岡山、広島、京都、東京、そして今回神戸へ転勤になりました。その度に地域や学校との関係を新しく築きながらKちゃんは東京で大学生活を送る決心をしたようです。何もかも自分で手続きをして、生活を始めたKちゃんのたのもしい成長に拍手です。本当にうれしいお手紙でした。

しかしその分、お母さんにとってはさびしいし、心配なことだと思えます。これからは、ご主人やお友だちと仲良く、趣味や旅行、ボランティアなど大いに楽しんでほしいと思えます。



堀 侃子